

4月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
10	水	18:30	【八日会】2024年4月例会	シェラトンホテル鹿児島 4階 Daily Social (デイリーソーシャル)

令和6年度鹿児島県トライアル発注・販路開拓支援事業に係る製品等の募集について(4/26(金)締切)

鹿児島県では、県内の中小企業等の振興を促進するため、県内に本社・本店を有する中小企業等が開発した製品等について、県の機関が試験的に発注し、販路の開拓や受注機会の拡大を図る「鹿児島県トライアル発注・販路開拓支援制度」を実施しています。

詳細につきましては以下のとおりとなりますので、是非ご検討ください。

【鹿児島県 HP: 令和6年度鹿児島県トライアル発注の募集】

https://www.pref.kagoshima.jp/af03/trial06_01.html

1 募集期間: 令和6年2月27日(火)から4月26日(金)

2 応募用紙提出期間: 令和6年4月1日(月)～4月26日(金)【必着】

※ 募集要領に基づき、下の申込先まで電子データ(一部郵送)で提出してください。

電子データでの提出が難しい場合は鹿児島県庁の担当課までお問合せください。

3 応募対象企業・要件

※ 鹿児島県ホームページ掲載の募集要領で必ず詳細をご確認ください。

【対象企業】県内に本社・本店を有する中小企業等

【要件】 以下(1)～(3)を全て満たすものとします。

(1) 県内中小企業等が開発したもので、次のいずれかに該当するもの。

- ① 新商品(食品、飲料及び医薬品は除く。) ② ①の新商品を利用した役務の提供
③ 新役務(アプリ・クラウドサービス等)の提供 ④ 公共工事における工法

(2) 優れた技術・製品特性を有し、市場性が見込まれる製品等であると認められるもの。

(3) 県の機関が調達しているもの又は用途が見込まれるもの。

4 お問合せ・申込先

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10番1号 鹿児島県庁産業立地課 ものづくり支援係

TEL:099-286-2970 E-mail:monozukuri@pref.kagoshima.lg.jp

◆令和5年度 鹿児島大学工業倶楽部賞受賞者のご紹介◆

鹿児島県工業倶楽部では鹿児島大学との包括連携協力協定に基づき、鹿児島県の地域産業の発展に貢献し、優秀な研究業績を高く評価された大学院生を対象に、毎年鹿児島大学の卒業式で「鹿児島大学工業倶楽部賞」として表彰を行っております。

今年度の受賞者と対象の研究内容についてご紹介します。

◆農林水産学研究科 農林資源科学専攻 2年 片淵歩美 様

「家畜の生産性ならびに食肉品質の評価に資する代謝物質の定量方法の開発に関する研究」

・片淵さんは、生体内の代謝物全般を研究対象として、代謝物質の定量技術の開発や代謝物の網羅的解析に関する研究活動などに従事し、これまで学術論文5編および学会発表8回(うち筆頭発表者として国際学会1回、優秀発表賞1回)の成果をあげています。

代謝物質の定量技術の開発については、筋原線維タンパク質に含まれるアミノ酸(Ntメチルヒスジン)の分析精度の向上を目的として、分析方法の研究に取り組み、その結果、微量の試料で当該アミノ酸の分析が可能となり、連続的な採血による骨格筋タンパク質分解量のモニタリングや培養細胞中の骨格筋タンパク質分解量の評価が可能となりました。

さらに、鶏肉品質の向上を目的とした飼料添加物の研究にも積極的に参加されるなど、肉用家畜(和牛、豚、鶏)の生産量が全国1位の鹿児島県の農業振興に資する実用的な内容であり、片淵さんの粘り強く、熟考する真摯な姿勢と努力に基づくものとして、また、大学、農研機構、企業との共同研究の成果として評価されました。

◆連合農学研究科 生物生産科学専攻 3年 後藤 啓太 様

「作物の環境ストレス応答機構の解明とその応用による生育評価システム開発の研究」

・後藤さんは、先進的な作物の生育評価技術の開発を通して、機構変動に適応した「ポスト緑の革命」に資する新しい農業生産体系の基盤を確立したいとの想いをもって主体的に研究に取り組みました。具体的には、植物の個体生育を精密に測る植物生理学と植物群落評価を可能とするGIS・リモートセンシング技術の応用によって実現する高精度な生育評価システムの構築です。

気候特性の複雑な熱帯地域にて最先端の生育診断技術の有効性を実証し、新規の知見を米国で開催された国際学会で発信しました。本成果の社会実装によって、農林水産業の持続的向上と機構変動のレジリエンス強化を加速し、他方では、鹿児島における熱帯作物の導入、日本作物学会誌への寄稿、JICAのイネ研究・技術指導用オンデマンド映像教材の製作等、継続して行ってきた実践的で主体性のある研究関連活動についても関係者から高い評価を得ています。

極めて優秀な学術研究成果を収め、国内外で高い波及公開を齎しており、今後のさらなる飛躍が期待できることから、評価されました。